

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁<sub>en</sub>

2015 Vol.36 autumn





季刊  
縁<sub>en</sub> 2015 Vol.36 autumn

心豊かな暮らし

## contents

P 3 >>

特集

親子二世帯

歩いて行ける距離で暮らす — 岐阜県大垣市 M 様邸

P 7 >>

矢橋の家

木と土と石を使った近代西洋建築の復刻モデル 「欧」モデルハウス

P 11 >>

「VEGETABLE SHOP 余呉農園」OPEN!

カフェ併設のお米や野菜の直売所が垂井町にオープン

連載

中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水春一

江村北海(二)

表紙写真 牡丹園内 コスモス

P.1 「欧」モデルハウス Main Bedroom

P.2 「欧」モデルハウス Study & Hobby Room

OU MODEL HOUSE

欧<sup>ou</sup>



光熱費0の暮らしを可能にする家

ENETOMO style



03



02

01 大空間の開放的な吹き抜けのあるリビング。間仕切りを減らし、快適温度を循環。空気がつながり、家族もつながる

02 透灯がアクセントになった白く清潔感のある玄関ホール

03 切妻を変形させた片流れ屋根が特徴的な外観。風を取り入れたり、遮ったりと窓の設計も多彩

04 先進技術・設計提案力でエネルギー消費を抑えたいうえで、エネルギーを創る。エネルギー消費量を差し引きでネット（正味）ゼロにすることで、光熱費0の暮らしを可能にする家（懐シリーズ・ENETOMOスタイル）

熱交換換気システム採用。心地よい季節は自然の風と光を楽しみ、夏と冬は全熱交換型換気システムを利用して快適に。

05 かわいいお孫さんと仲良く散歩するM様ご夫婦



04



05

KAI  
懐

## ■ 特集

# 親子二世帯 歩いて行ける距離で暮らす

岐阜県大垣市 M様邸

ご夫婦二人暮らしのM様邸から、元気なこどもの声が聞こえてくる。  
玄関からちらっと顔を出してくれたのは、同じ街に暮らす、かわいいお孫さんだ。  
同市内のマンションに住まわれていたM様。この度、子世帯の近くに新居を構えた。やはり、同市内とは言え車で行き来すると、歩きではずいぶん違う。近くなったことにより、しばらく家を空ける時は、お庭の水やりを頼んだり、お買い物の間少しだけ孫の面倒を見たりと、ちょっとしたことででも助け合える。  
おじいちゃん、おばあちゃんのお家が好き、お孫さんたち。「一度来るとなかなか帰りがなくて・・・(笑)」とご主人。  
お散歩に行くよと言ってお家まで送って行かれることも。



06 にぎやかなダイニングキッチン。最新省エネ設備。電気式床暖房も完備。高気密高断熱使用で、住まいを魔法瓶化。窓からも熱を逃がさない樹脂サッシを採用。ダイニングルームの大きな観葉植物は、現在に至るまで引っ越しを共にされている大切なシュロチク

07 お孫さんをやさしく見守るご主人

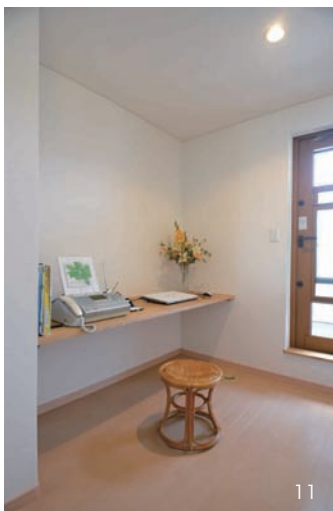
08 お気に入りの電車の積み木で楽しそうに遊ぶお孫さんと奥様

09 リビングからつながる和室。時には和室でゆっくりと

10 今後拡大予定の家庭菜園スペース

11 2F階段西側のフリースペース

12 街は静かで、歩道もあるため、小さいお子さまも安心



心豊かな暮らし

06



ご子息様世帯も、2010年に取材をさせていただきました。取材当時、まだ小さくてお話もできなかったお子さまと、いっぱいお話ができました。取材日お兄ちゃんは、残念ながら不在でしたが、かわいい弟が。家族が一人増え、ご両親が同じ街に。より一層お幸せそうなM様と再会することができました。



健康に配慮して  
快適に暮らす



営業担当  
住宅部 職長 山田健司

M様のご家族やご子息は、お互いを敬うことができる素敵なご家族です。

ご近所に若夫婦もお見えになり、お孫さんとの思い出も更にたくさん増えることと思います。

二度に渡る取材にご協力いただき、ありがとうございました。

今後とも変わらぬお付き合いの程、よろしくお願いたします。



08



07

## 「とにかく安心です」

ご近所だから、お互いに行き来がしやすく便利というだけでなく、「とにかく安心です」と奥様。「静かな街で、安全に安心して暮らせるというのが一番です」ご主人は、若い頃は出張も多く帰りが遅かったが、現在は早く帰宅し、家で過ごす時間を大切にしている。「休日は妻の運転手(笑)。お買い物に行かない時は、お家でゆっくりしています。今は、小さな家庭菜園しかないが、今後はスペースを広げ、お庭で野菜づくりにも挑戦して行きたい」とご主人。時には子世帯とにぎやかに、時には自分の時間を楽しむ。そんな“心豊かな暮らし”を。



Drawing Room



Entrance Hall



本物

Living Room

心豊かな暮らし  
矢橋の家

木と土と石を使った近代西洋建築の復刻モデル



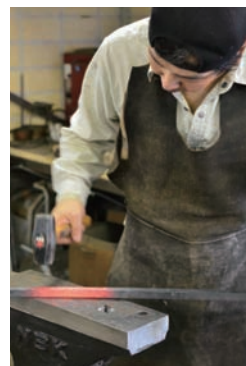
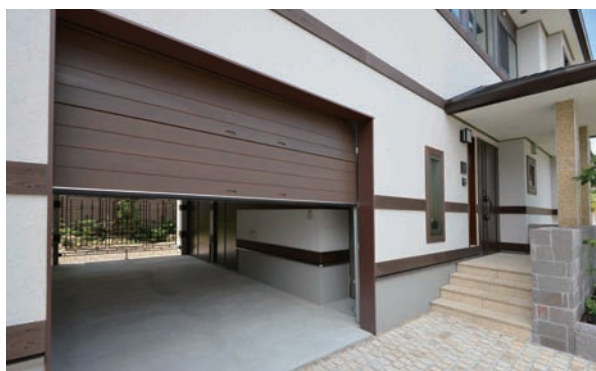
明治・大正・昭和初期の日本における西洋建築を再現。  
クラシックホテルの様な佇まいは、  
古き良き時代を思い出させてくれます。  
できる限り自然素材を使い、  
ひとつひとつ丁寧に仕上げました。  
暮らしの中で傷がつく、家に時代がついていくのも  
本物ならではの楽しみです。

OU MODEL HOUSE



# Iron Fence

手づくりの矢橋オリジナルアイアンフェンス



ビルトインガレージの重厚感ある木製ガレージドアを開けると庭とガレージの間には、自社製のアイアンフェンスが。



「矢橋の家」に合う金具やフェンスを突き詰めた結果、市販製品では、合うものが見つからず、オリジナル製品を製作いたしました。

## 矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住まう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくる。

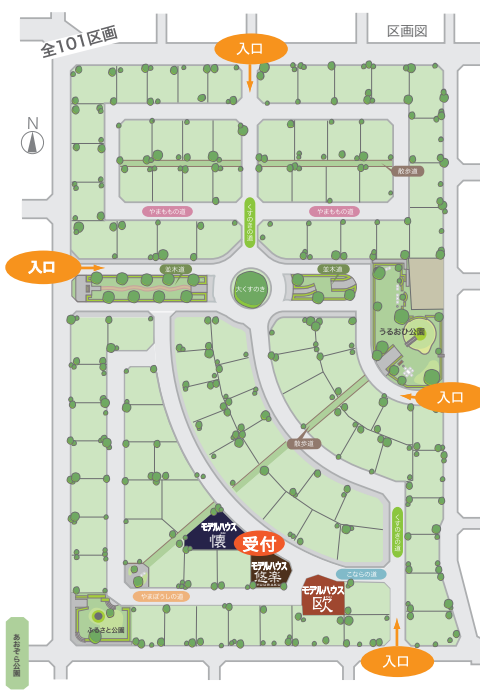
## 矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育 趣味

## 温故知新



**矢橋林業株式会社**  
YABASHI  
住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001  
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業  
0120-884-039  
http://www.yabashi.co.jp/house/  
矢橋林業 検索



MODEL HOUSE PLAN  
敷地面積：200.82㎡ (60.74坪) 施工面積：209.34㎡ (63.31坪)  
1F床面積：96.60㎡ (29.22坪) 2F床面積：92.46㎡ (27.96坪)

# Natural Life

— 緑の中で自然に暮らす —



Wood Fence・Wood Deck

内から外へ、外から内へとつながる空間。

自然樹形の美しい山木は、四季の移ろいや自然とのつながりを感じさせてくれます。



できる限り本物を使い  
矢橋の技術力により実現した空間

矢橋オリジナル無垢フローリング、造作材、木製サッシ、漆喰壁や自社製の家具、スタンドグラスや手すりの金具など全てが融合し本物の空気感を醸し出します。  
この空間が自然と居心地の良さを感じさせてくれます。



Entrance Porch



山くらげ



水なす



トランベツズッキーニ



えごまの葉



Vietnam coffee



赤坂のいちじく

日本の美しい原風景が残る余呉町（滋賀県長浜市）と赤坂町（岐阜県大垣市）で、栽培期間中農薬不使用・有機肥料で育てた安全・安心で新鮮なお米や野菜を直売。併設のカフェでは、ベトナムコーヒーやハス茶なども楽しんでいただけます。

弊社の垂井工場（構造材プレカット工場）と同じ敷地内にオープンしたこのショップは、工場緑化の一環でありモデルパークとして自社にて設計・施工いたしました。



VEGETABLE SHOP  
余呉農園

OPEN!

カフェ併設のお米や野菜の直売所が垂井町にオープン

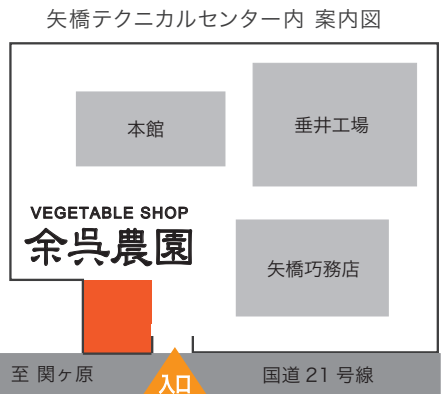




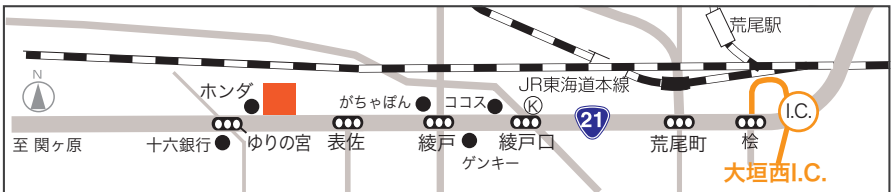
上記は一例であり、他の野菜等も栽培しておりますが、天候により収穫できないことや収穫時期が変動する場合がございます。



## VEGETABLE SHOP 余呉農園



入口から入ってすぐ左側です。



所在地: 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 (矢橋テクニカルセンター内)

営業日: 土・日 10:00~16:00 (収穫状況等によりお休みをさせていただく場合がございます)

駐車場: 有り

お問い合わせ  
TEL : 0749-86-3021  
E-mail : yogo@mail.yabashi.co.jp



グリーンコート事業部 AGROFORESTRY 余呉農園 <http://www.yabashi.co.jp>

## 心豊かな暮らしをめざして

矢橋が掲げる理念は「人間探究」であります。人間を探究する中で、我々がめざさなければならない重要な事の一つが「心豊かな暮らし」です。「心豊かな暮らし」の必須事項は、家族の幸福だと思っています。ひと昔前の日本の家族は3世代、或は4世代の家族が一つの家に暮らしている事も珍しくありませんでした。第2次大戦後の貧しかった日本から高度成長を実現していく過程で、従来から受け継がれてきた家族の形は、随分変化を遂げてしまいました。我々が提供する住宅は、ご夫婦にお子様2人から3人の家族を前提として考えております。ご両親と同居される場合は、特別に二世帯住宅という言葉が出現したように標準ではなくなりました。

忘れ去られてきた日本の家族の伝統、文化を見直して再度見つめなおさなければならないような時代が来ているのではないかと思います。今後さらに日本の社会がグローバル化して行くと、我々は何物であったのか、日本人であるアイデンティティーを明確に認識して行かなければ見失ってしまい、誇りを失ってしまうかもしれないと危機感を募らせています。

道徳観、親孝行、年長者を敬うなど、日本の歴史的なモラルがなくなりつつあります。時代が変わり、社会が変わろうとも、日本人が引き継いできたモラルは失ってはいけないと思っています。我々の「心豊かな暮らし」には自らのアイデンティティーを確認し、自覚し、引き継ぐという事が大事だと思います。

我々は、住宅を供給するメーカーとして家族の単位が小さくなって行く事に何の疑問も持たなくてよいのかと自問自答しています。新しい住宅地を提供する場合においても、矢橋の理想は同じ住環境(分譲地)にご両親とお子様のご家族が別々に家を持って頂き、同居ではなく近所で暮らして頂き、ご家族の伝統を引き継いで頂く事を理想としています。本誌掲載のお施主様のように、いつの日にか多くのご家族の方々に、この理想的な環境をお届けできるように努力をしていかなければならないと思っています。

日本の家族の形と同様に、日本の農家も現在危機に面しています。弊社の農園のある余呉町では過疎化と高齢化が同時に進み、農業の担い手がなくなりつつあります。日本の余呉町でしか採れない農産物の旬に、採れたてを提供する。これが地産地消の原則であり、日本の伝統的な農業です。我々は農家の形式が変わっても、日本人が食べなければならない日本人の味を繋げて行きたいと思っています。食文化は「心豊かな暮らし」の重要事項であり、日本の家族関係と共に日本人が日本人であるアイデンティティー構成する必須要件だと思います。

矢橋グループは「心豊かな暮らし」の為にグローバル化する社会に対してローカルな無くしてはいけない事、物を掘り起こしてまいりたいと思っています。

矢橋林業株式会社  
代表取締役社長 矢橋龍宜

# 江村北海(二) うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記 故清水 春一

江村北海は正徳三年(七三三)の春、京都の大火に遭い、父伊藤龍洲が、臨月の妻を播州赤石(明石)にある里方の兄の河村家へ疎開(避難)させていたときに誕生しました。なぜか九歳のときから十八歳までの青年期を赤石で育ち、独学で俳諧を

嗜み十七文字の俚歌得意とし、赤石の文学者梁田蛭巖に、その才能を認められ激励をつけたのに発奮し、漢学を学び始めました。三年後には京都

に出て、父に代わって経史を講説するまでになり、兄の錦里と、弟の儋叟と三人揃って「伊藤氏の三珠璣」と呼ばれ讃えられたといえます。

そして北海(名は綬、字は君錫、通称は伝左衛門、号を北海)は、父の友人である丹後宮津の青山侯の儒者であった江村毅庵の懇請によって、江村家の後継として約束されました。たまたま毅庵がその年の六月に参勤交代で江戸詰の殿様に従っているとき、病没したので、以来後嗣として青山侯に仕官します。三十歳のとき学識才能とともに政治行政手腕を買われて、京都留守居役に拔擢されました。

しかし、青山藩侯十一代の幸道が宮津から美濃国郡上八幡城主に転封になり、北海を伴って転任しようとしていた矢先に、果たさずして世を去り

ました。そのため北海は致仕(隠退)して京都室町の四条下町に隠棲し、以来いづれの殿様にも仕官を断つて、花鳥風月を友とし、学問詩文を唯の楽しみとしたと伝えられています。

## 「三北海」の第一人者

そうした北海の晩年は、かつての義理人情といえましょうか、情義にあつく人を尊重するといふこともあつて、郡上八幡の青山侯の要請に応え、客師として京都から郡上八幡まで、藩の子弟の教育のために往来し、その折りに中山道を利用したのでした。郡上八幡で藩校の創設などに力を尽くしています。当時大阪の片山北海、江戸の入江北海、京の江村北海の三人は「三北海」と呼ばれ、学者として有名でした。その中でも江村北海が第一人者であると考えられています。

北海は、曾祖父に当たる江村専斎が後水尾上皇から鳩杖を賜ったことを記念して、その住居を「賜杖堂」と名乗っています。毎月十三日には諸名士や多くの門人たちが集まり、詩を賦して指導をつけて、勉強することを楽しんだことは、

海内未曾有のことと伝えられているほどです。

こうした時代の第一人者である江村北海に入門して漢学を勉強した矢橋赤山・赤水の兄弟、および丹陽・柳崖父子などの住む中山道赤坂宿は、文字通り子弟関係に結ばれた因縁深い地であり、青山侯に招かれ郡上八幡への往来の都度、赤坂宿を休泊に利用するのは当然のことであつたわけです。

また、北海に師事した矢橋赤山は、赤坂宿の豪農で辻矢橋家の第五代藤十郎(木巴)の孫に当たります。父長卿が京都で医師をしていたとき、官中の女官であつた図司多美(民子)と結婚して生まれたのが赤山でした。しかし不幸にも父は二十八歳の若さで亡くなり、母がその兄の元連(三郎兵衛)と再婚したので、赤山はその養嗣子となつたのでした。

赤山は、邸内に別荘を設けて「翠微亭」と名付け、また別に「老楓」とか「紅於」などとも呼び、風流文雅を楽しむ、特に詩文に長じ、風景自然を詠じて名を知られ、そのため中山道赤坂宿を訪ねて、赤山・赤水兄弟を訪ねぬ者はなかつたとまで伝えられています。

そうした客を迎えて詩酒唱酬した雅友には江

村北海をはじめ、南宮大湫(江戸の儒者)、守屋東陽(大垣藩の侍講)、松平君山(尾張藩儒者)、岡田新川(同)、董楼(同)、龍草廬(彦根藩儒者)、野村東阜(同)、千村鷺湖(尾張藩儒者)、河村乾堂(尾張藩国学者)、宮田嘯台(加納藩詩人)など数多くの人々があつたようです。

しかし、そのうちでも特に、ここに紹介する江村北海とは師弟の関係以上のものがあり、赤山は自邸に歓迎して金生山へも案内するなどして、北海先生の来訪を謝する詩や、金生山明星輪寺に詣でた詩など優れた作を遺しています。

北海先生および諸子と同じく

明星閣に登り僧字を得たり 矢橋赤山作

突兀たり明星閣

寒天、清景澄む

稲は黄にして、斜照は淡し

山は紫にして、暮烟凝る

林表、棲を争うの鳥

潤辺、院に帰るの僧

澹然として、幽意かなう

ために謝公と共に登る



矢橋林業株式会社